

YAESU
The radio

144/430MHz
DUAL BAND FM TRANSCEIVER

FTM-6000 FTM-6000S

取扱説明書 詳細編  Bluetooth®



製品の仕様・外観等は改良のため予告なく変更することがあります。
この取扱説明書に記載の社名・商品名等は、各社の商標または登録商標です。
この無線機を使用するには、総務省のアマチュア無線局の免許が必要です。
また、アマチュア無線以外の通信には使用できません。
この取扱説明書は、詳細な機能に関する説明が記載されています。
基本的な操作に関する説明は、本製品に同梱の取扱説明書をお読みください。

目次

基本設定	1
マイクゲインの調整.....	1
ビーブ音の音量調整.....	1
特定の相手局と交信する	2
スケルチの種類を選択する.....	2
トーンスケルチ機能.....	3
トーン周波数を設定する.....	3
相手局が使用しているトーンスケルチの周波数を探す.....	4
デジタルコードスケルチ(DCS)機能.....	5
DCS コードを設定する.....	5
相手局が使用している DCS コードを探す.....	6
ページャー(EPCS)機能.....	7
自局のページャーコードを設定する.....	7
相手局のページャーコードを設定する.....	8
ページャー機能を使う.....	8
相手からの呼び出しを知らせるベル機能.....	9
DTMF 機能を使う	10
手動で DTMF コードを送出する.....	10
DTMF メモリーを登録する.....	10
登録した DTMF コードを送出する.....	12
便利な機能	13
スプリットメモリー.....	13
スキャンしたくないメモリーチャンネルをスキップする(スキャンスキップ).....	14
プログラマブルメモリスキャン(PMS).....	14
プログラマブルメモリーに書き込む.....	14
プログラマブルメモリスキャン(PMS)を動作させる.....	15
デュアルレシーブ(DW)機能.....	16
デュアルレシーブ (DW) を動作させる.....	16
アーツ(ARTS)機能.....	17
ARTS の設定を行う.....	17
ARTS 機能を動作させる.....	18
ARTS 信号の自動送出間隔を変える.....	19
クローン操作	20
外部機器と接続	21
使い方に合わせて設定を変える(メニューリスト)	23
メニューリストの操作方法.....	23
メニューリスト動作一覧表.....	24
01 APO.....	26
APO(オートパワーオフ)時間の設定.....	26
02 AR MOD.....	26
ARTS 機能の動作設定.....	26
03 AR INT.....	26
ARTS 信号の自動送出間隔設定.....	26
04 BCLO.....	26
信号受信中の送信禁止設定(ビジーチャンネルロックアウト).....	26
05 BEEP.....	27
ビーブ音の音量設定.....	27

06 BELL	27
ベル機能動作時の呼出回数設定	27
07 CLK.TYP	27
CPU クロックのシフト設定	27
08 DIMMER	27
バックライト輝度の調整	27
09 DTMF	27
DTMF コードの送出方法設定	27
10 DT TX	28
登録してある DTMF コードの送出	28
11 DT MEM	28
DTMF メモリー CH 選択および編集	28
12 HOME	28
ホームチャンネルの呼び出し	28
13 MIC.GIN	28
マイク入力レベルの調整	28
14 MIC.PGM	28
マイクロホンのプログラマブルキーの機能変更	28
15 PAGER	29
ページャーコード(送信用 / 受信用)の設定	29
16 PKT.SPD	29
データ通信のボーレート設定	29
17 RX MOD	29
受信モードの切り替え	29
18 BND.SEL	29
バンドスキップ機能の設定	29
19 RPT.REV	29
一時的に送信周波数と受信周波数を入れ替える	29
20 RPT.SET	30
レピータシフト方向の設定	30
21 RPT.OTR	30
RPT.ARS(オートレピータシフトの設定)	30
RPT.FRQ(レピータシフト幅の設定)	30
22 SCN.ON	30
信号がある周波数を探すスキャン機能の ON/OFF	30
23 SCAN TYP	31
SCN.RSM(スキャンストップ時のスキャン再開条件の設定)	31
DW RVRT(DW 動作中の送信操作で常にプライオリティチャンネルで送信)	31
24 SQL TYPE	31
25 SQL CODE	31
トーン周波数や DCS コードの設定	31
26 SQL EXP	31
送受信で個別スケルチ設定の ON/OFF	31
27 STEP	32
周波数ステップの設定	32
28 xx.xx C	32
無線機の終段部付近の温度を表示	32
29 TOT	32
連続送信の制限時間の設定(タイムアウトタイマー)	32

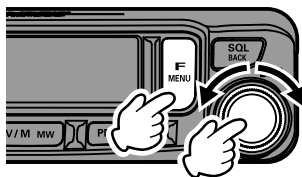
30 TX PWR	32
送信出力の切り替え	32
31 VER.DSP	33
本機のファームウェアバージョン表示	33
32 xx.xV	33
電源電圧表示	33
33 WIDTH	33
送信変調レベル設定	33
34 BLT	33
Bluetooth® 機能の設定	33
BLT.LST(Bluetooth® デバイスリスト)	33
BLT.SAV(Bluetooth® バッテリーセーブ機能)	33
BLT.AF(Bluetooth® 接続中に本機のスピーカーを鳴らすかどうかを設定する)	33

基本設定

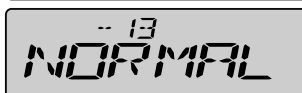
マイクゲインの調整

マイクロホンの感度(マイクゲイン)を調節することができます。

1. **[F MENU]** キーを長押しします。
2. **DIAL** ツマミをまわして**[13 MIC.GAIN]** を選択して、**DIAL** ツマミを押します。



3. **DIAL** ツマミをまわしてレベルを選択します。



MIN(感度小) / LOW / NORMAL / HIGH / MAX(感度大)から選べます。

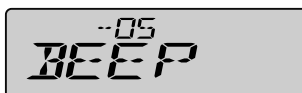
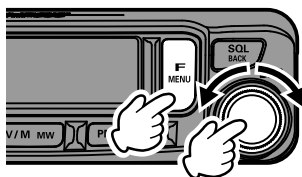
工場出荷時：NORMAL

4. **DIAL** ツマミを押すと設定が保存され、通常画面に戻ります。

ビーブ音の音量調整

キーを押した時に鳴るビーブ音の音量を調節することができます。

1. **[F MENU]** キーを長押しします。
2. **DIAL** ツマミをまわして**[05 BEEP]** を選択して、**DIAL** ツマミを押します。



3. **DIAL** ツマミをまわして音量レベルを選択します。



OFF(ビーブ音は鳴りません) / LOW / HIGH(音量大)から選べます。

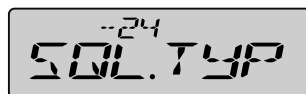
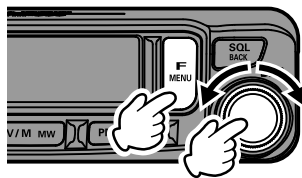
工場出荷時：LOW

4. **DIAL** ツマミを押すと設定が保存され、通常画面に戻ります。

特定の相手局と交信する

スケルチの種類を選択する

1. [F MENU] キーを長押しします。
2. DIAL ツマミをまわして[24 SQL.TYP]を選択して、DIAL ツマミを押します。



3. DIAL ツマミをまわしてスケルチの種類(下表参照)を選択します。

スケルチ種類	アイコン表示	スケルチの動作説明
OFF	アイコン表示なし	トーンスケルチやDCSなどがオフになり、FMモードの通常のスケルチ動作となります。
TON.ENC		トーンを含んだ信号を送信します。受信は通常のスケルチ動作となります。
TON.SQL		トーンスケルチがオンになります。
REV.TON	アイコン表示なし	リバーストーンがオンになります。通話していないときにトーン信号が含まれ、通話を開始するとトーン信号が含まれない方式の通信を受信するときに使用します。
DCS		デジタルコードスケルチ(DCS)がオンになります。023～754の中から104種類のコードが設定ができます。
PR FRQ		JR以外の空線スケルチ機能がオンになります。空線信号音の周波数にあわせて300～3000Hzの範囲で100Hzステップで設定できます。
PAGER		新ページャ機能がオンになります。仲間同士で運用中に、個別コードを設定して特定の局を呼び出すことができます。
JR FRQ		JRの空線スケルチ機能がオンになります。通話していないときに聴こえる“ビー”という2280Hzの空線信号音を消すことができます。
DCS.ENC [※]	アイコン表示なし	DCSコードを含んだ信号を送信します。受信時は通常のスケルチ動作となります。
TON.DCS [※]	アイコン表示なし	トーン信号を含んだ信号を送信します。受信時はDCSコードが一致した信号だけを受信します。
DCS.TSQ [※]	アイコン表示なし	DCSコードを含んだ信号を送信します。受信時はトーンが一致した信号だけを受信します。

※：メニューリスト [26 SQL.EXP] (□ 18 参照) を ON に設定すると、“DCS.ENC”、“TON.DCS”、“DCS.TSQ”の設定項目が選択できるようになります。

4. DIAL ツマミを押すと設定が保存され、通常画面に戻ります。

- スケルチの種類は周波数帯(BAND)ごとに設定できます。
- トーンスケルチや DCS の設定は、スキャン動作時も機能します。トーンスケルチや DCS が機能している状態でスキャンすると、一致する周波数のトーンや DCS コードが含まれている信号を受信したときだけスキャンが停止します。
- “SQL OFF” を割り当てたマイクロホンの [P1]/[P2]/[P3]/[P4] キーを押すと、トーンや DCS コードが含まれていない信号や異なるトーンや DCS コードの信号を聞くことができます。

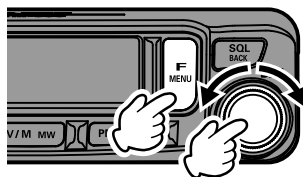
トーンスケルチ機能

トーンスケルチ機能を使うと、設定した周波数のトーンが含まれた信号を受信したときだけスケルチが開きます。トーンスケルチを使うと、特定の局からの呼び出しを待ち受けている間は、他局の信号は受信しません。

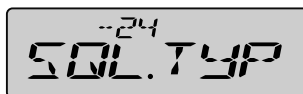
トーン周波数を設定する

トーン周波数は、67.0 ~ 254.1Hz の 50 種類から選択できます。

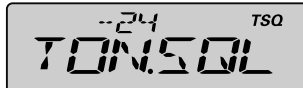
1. [F MENU] キーを長押しします。
2. DIAL ツマミをまわして [24 SQL.TYP] を選択して、DIAL ツマミを押します。



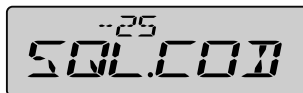
3. DIAL ツマミをまわして “TON.SQL” を選択します。



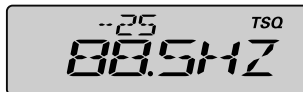
4. [SQL BACK] キーを押し、DIAL ツマミをまわして [25 SQL.COD] を選択して、DIAL ツマミを押します。



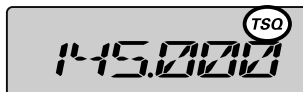
5. DIAL ツマミをまわして、トーン周波数を選択します。



6. DIAL ツマミを押すと設定が保存され、通常画面に戻ります。



“TSQ” が点灯します。

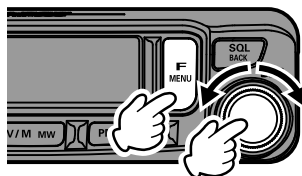


- トーン周波数の設定は、下記のスケルチの種類で共通の設定です。
TON.ENC、TON.SQL、REV.TON、TON.DCS、DCS.TSQ
- 工場出荷時は “88.5Hz” に設定されています。

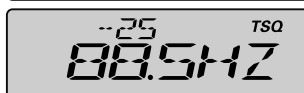
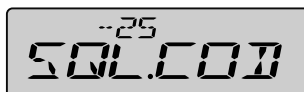
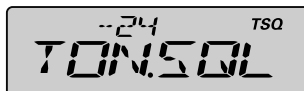
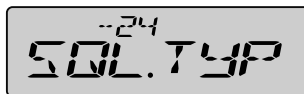
相手局が使用しているトーンスケルチの周波数を探す

相手局のトーン周波数を調べることができます。

1. [F MENU] キーを長押しします。
2. **DIAL** ツマミをまわして[24 SQL.TYP]を選択して、**DIAL** ツマミを押します。



3. **DIAL** ツマミをまわして“TON.SQL”を選択します。
4. [SQL BACK] キーを押し、**DIAL** ツマミをまわして[25 SQL.COD]を選択して、**DIAL** ツマミを押します。
5. マイクロホンの [UP] または [DWN] を長押しします。



[UP] ➡ 周波数の高い方にサーチを開始

[DWN] ➡ 周波数の低い方にサーチを開始

サーチ中に **DIAL** ツマミをまわすと、サーチの方向を変更することができます。

一致したトーン周波数が見つかったら、サーチが約3秒間(工場出荷時の設定)停止して音声を聞くことができます。

6. マイクロホンの [UP] または [DWN] キーを押すとサーチが停止します。
7. **DIAL** ツマミを押します。

サーチしたトーン周波数に設定されて通常画面に戻ります。

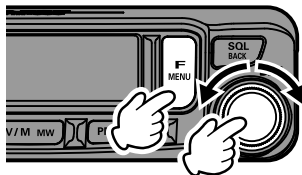
デジタルコードスケルチ(DCS)機能

デジタルコードスケルチ(DCS)機能を使うと、設定した DCS コードが含まれた信号を受信したときだけスケルチが開きます。DCS を使うと、特定の局からの呼び出しを待ち受けている間は、他局の信号は受信しません。

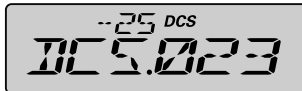
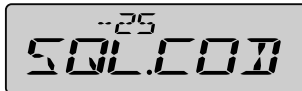
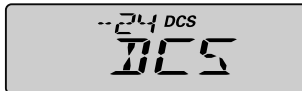
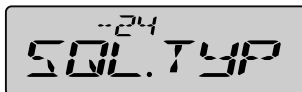
DCS コードを設定する

DCS コードは、023 ~ 754 の 104 種類から選択できます。

1. **[F MENU]** キーを長押しします。
2. **DIAL** ツマミをまわして **[24 SQL.TYP]** を選択して、**DIAL** ツマミを押します。



3. **DIAL** ツマミをまわして **"DCS"** を選択します。
4. **[SQL BACK]** キーを押し、**DIAL** ツマミをまわして **[25 SQL.COD]** を選択して、**DIAL** ツマミを押します。
5. **DIAL** ツマミをまわして、DCS コードを選択します。
6. **DIAL** ツマミを押すと設定が保存され、通常画面に戻ります。
"DCS" が点灯します。

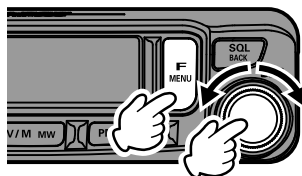


- DCS コードの設定は、下記のスケルチの種類で共通の設定です。
DCS、DCS.ENC、TON.DCS、DCS.TSQ
- 工場出荷時は DCS コードは "023" に設定されています。

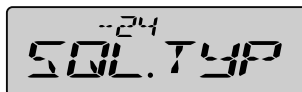
相手局が使用している DCS コードを探す

相手局の DCS コードを調べることができます。

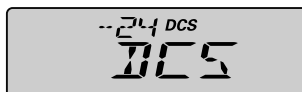
1. [F MENU] キーを長押しします。
2. **DIAL** ツマミをまわして[24 SQL.TYP]を選択して、**DIAL** ツマミを押します。



3. **DIAL** ツマミをまわして“DCS”を選択します。



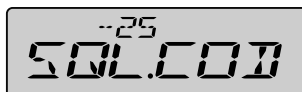
4. [SQL BACK] キーを押し、**DIAL** ツマミをまわして[25 SQL.COD]を選択して、**DIAL** ツマミを押します。



5. マイクロホンの [UP] または [DWN] を長押しします。

[UP] ➡ DCS コードの高い方にサーチを開始

[DWN] ➡ DCS コードの低い方にサーチを開始

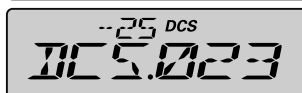


サーチ中に **DIAL** ツマミをまわすと、サーチの方向を変更することができます。

一致した DCS コードが見つかると、サーチが約 3 秒間(工場出荷時の設定)停止して音声を聞くことができます。

6. マイクロホンの [UP] または [DWN] キーを押すとサーチが停止します。
7. **DIAL** ツマミを押します。

サーチした DCS コードに設定されて通常画面に戻ります。



サーチが停止したときの動作はメニューリスト[23 SCN.TYP] (□ 18 参照)で設定することができます。この設定は各種スキャン機能のほか、トーンサーチ機能、DCS サーチ機能で共通です。

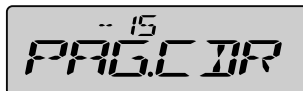
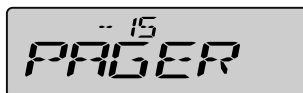
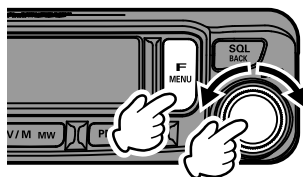
ページャー(EPCS)機能

仲間同士で運用中に、それぞれの個別コード(2つの CTCSS トーンを使用したコード)を設定すると、特定の局だけを呼び出せます。

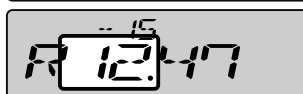
自局のページャーコードを設定する

自分が呼び出されるときの“ページャーコード”を設定します。

1. **[F MENU]** キーを長押しします。
2. **DIAL** ツマミをまわして**[15 PAGER]** を選択して、**DIAL** ツマミを押します。
“PAG.CDR”が表示されます。
3. **DIAL** ツマミを押します。



4. **DIAL** ツマミをまわして左側のコードを 01 ~ 50の中から選択します。



5. **DIAL** ツマミを押します。

- 右側のコードが設定できるようになります。
- **DIAL** ツマミを押すたびに、左側 ⇄ 右側と交互に切り替わります。



6. **DIAL** ツマミをまわして右側のコードを 01 ~ 50の中から選択します。

左側と右側を同じコードに設定することはできません。

7. **[SQL BACK]** キーを 3 回押すと設定が保存され、通常画面に戻ります。

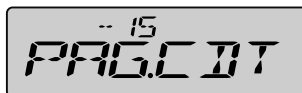
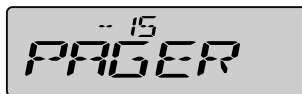
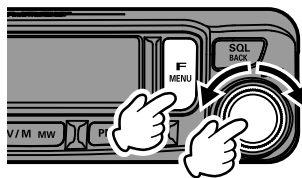


- “05 47”と“47 05”のように逆の組み合わせは同じコードとして動作します。
- 仲間同士が全員同じコードに設定すると、グループ全員を一斉に呼び出せます。
- 工場出荷時は“05 47”に設定されています。

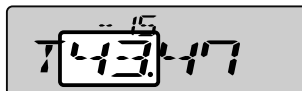
相手局のページャーコードを設定する

相手局を呼び出すときの“ページャーコード”を設定します。

1. **[F MENU]** キーを長押しします。
2. **DIAL** ツマミをまわして**[15 PAGER]** を選択して、**DIAL** ツマミを押します。
“PAG.CDR”が表示されます。
3. **DIAL** ツマミを右にまわします。
“PAG.CDT”が表示されます。
4. **DIAL** ツマミを押します。

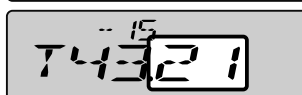


5. **DIAL** ツマミをまわして左側のコードを 01 ~ 50 の中から選択します。



6. **DIAL** ツマミを押します。

- 右側のコードが設定できるようになります。
- **DIAL** ツマミを押すたびに、左側 ⇄ 右側と交互に切り替わります。



7. **DIAL** ツマミをまわして右側のコードを 01 ~ 50 の中から選択します。

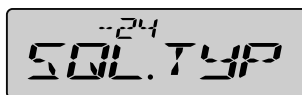
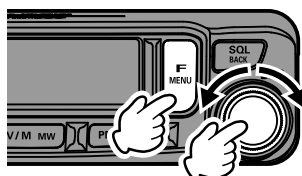
左側と右側を同じコードに設定することはできません。

8. **[SQL BACK]** キーを 3 回押すと設定が保存され、通常画面に戻ります。

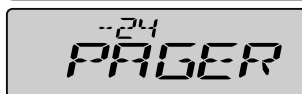
ページャー機能を使う

自分と相手局のページャーコードの設定を行った後、ページャー機能を動作させます。

1. **[F MENU]** キーを長押しします。
2. **DIAL** ツマミをまわして**[24 SQL.TYP]** を選択して、**DIAL** ツマミを押します。

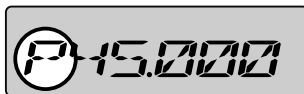


3. **DIAL** ツマミをまわして“PAGER”を選択します。



4. **DIAL** ツマミを押すと設定が保存され、通常画面に戻ります。

一番左の桁が“P”と表示されます。



5. PTT スイッチを押して相手局を呼び出します。



- “15 PAG.CDT” で設定した相手局だけを呼び出せます。
- 仲間全員が同じコードに設定すると、グループ全員を一斉に呼び出せます。
- 工場出荷時は“05 47”に設定されています。

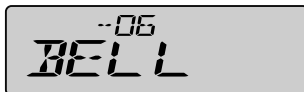
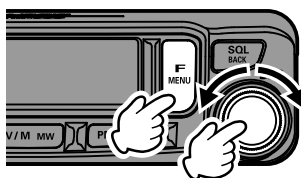
6. ページャー機能をやめる時は、上記の操作を行い、手順 3 で“OFF”を選択します。

相手からの呼び出しを知らせるベル機能

相手局からの呼び出し(同じトーンや DCS コード、ページャーコードを含む信号を受信)をベル音で知らせます。

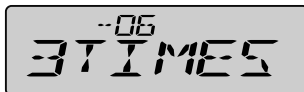
1. [F MENU] キーを長押しします。

2. **DIAL** ツマミをまわして[06 BELL]を選択して、**DIAL** ツマミを押します。



3. **DIAL** ツマミをまわしてベルが鳴る回数(1/3/5/8 または CONTI(連続))を選択します。

“OFF”にするとベルは鳴りません。



4. **DIAL** ツマミを押すと設定が保存され、通常画面に戻ります。



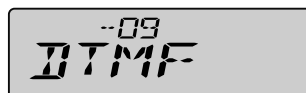
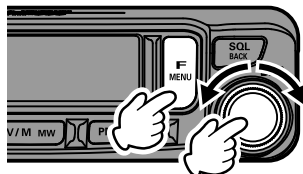
- 工場出荷時は“OFF”に設定されています。
- “CONTI”(連続)に設定した場合は、無線機の操作(VOL ツマミの操作は除く)をするまでベルが鳴り続けます。

DTMF 機能を使う

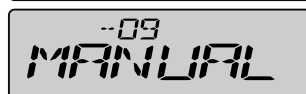
DTMF (Dual Tone Multi Frequency)は、プッシュホン回線の電話をかけたときに受話器から聞こえる“ピッポッパツ”音のことです。WIRES-X のアナログノード局に接続するときやフォーンパッチで公衆回線に接続するとき使用する、電話番号などのDTMF コードを最大 16 桁、9 チャンネル登録して簡単に送出できます。

手動で DTMF コードを送出する

1. [F MENU] キーを長押しします。
2. **DIAL** ツマミをまわして[09 DTMF]を選択して、**DIAL** ツマミを押します。



3. **DIAL** ツマミをまわして、“MANUAL”を選択します。

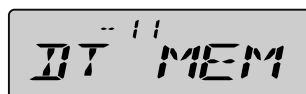
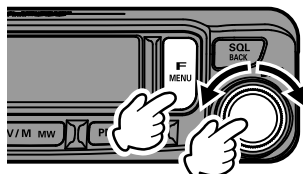


i 工場出荷時は“MANUAL”に設定されています。

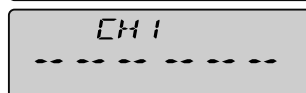
4. **DIAL** ツマミを押すと設定が保存され、通常画面に戻ります。
5. **PTT** スイッチを押しながら、マイクロホンのキーを押すと、キーを押している間、DTMF コードが送出されます。
キーを放してから約 2 秒間は、**PTT** スイッチを放しても送信を続けます。

DTMF メモリーを登録する

1. [F MENU] キーを長押しします。
2. **DIAL** ツマミをまわして[11 DT MEM]を選択して、**DIAL** ツマミを押します。
DTMF メモリーチャンネル番号が点灯します。



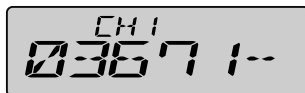
3. **DIAL** ツマミをまわして、登録する DTMF メモリーチャンネル番号(CH1 ~ CH9)を選択します。



4. **DIAL** ツマミを押します。

DTMF メモリー入力画面が表示されます。

5. マイクロホンのテンキーまたは**DIAL** ツマミを使って、最大 16 桁の DTMF コードを入力します。



• テンキー操作

0～9、A～D、*、#のDTMFコードを直接入力できます。



“*”は“E”、“#”は“F”と表示されます。

• **DIAL** ツマミ操作

DIAL ツマミをまわしてDTMFコードを選択できます。

．．．⇄ **0**～**9** ⇄ **A**～**F** ⇄．．．



“*”は“E”、“#”は“F”と表示されます。

DIAL ツマミを押すと、カーソルが右の桁に移動します。

• カーソル移動、入力文字の削除

[**PMG PW**] キー : カーソルを右に移動

[**BAND GRP**] キー : カーソルを左に移動

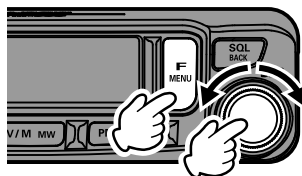
6. **DIAL** ツマミを長押しするとDTMFコードが保存され、DTMFメモリーチャンネル選択画面に戻ります。

7. 続けて他のDTMFメモリーチャンネルに登録する際は、**DIAL** ツマミをまわして選択します。

8. 登録を終了するには、[**SQL BACK**] キーを長押しすると、通常の画面に戻ります。

登録した DTMF コードを送出する

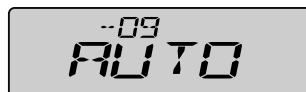
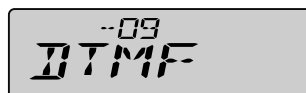
1. [F MENU] キーを長押しします。
2. **DIAL** ツマミをまわして[09 DTMF]を選択して、**DIAL** ツマミを押します。



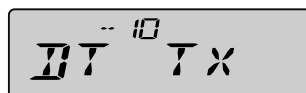
3. **DIAL** ツマミをまわして、“AUTO”を選択します。



工場出荷時は“MANUAL”に設定されています。



4. [SQL BACK] キーを押します。
5. **DIAL** ツマミをまわして[10 DT TX]を選択して、**DIAL** ツマミを押します。
6. **DIAL** ツマミをまわして、送出したいDTMFコードが登録されているチャンネルを選択して、**DIAL** ツマミを押します。



登録されている DTMF コードが自動で送出されます。



- PTT スイッチを押しながら、送出したいDTMFコードが登録されているチャンネル番号を、マイクロホンのテンキー(0～9)で押してもDTMFコードを送出できます。
- DTMFコードの送出中はPTTスイッチを放しても、送信を継続します。送出が終了すると自動的に受信状態に戻ります。

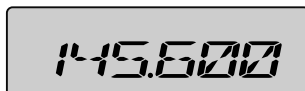
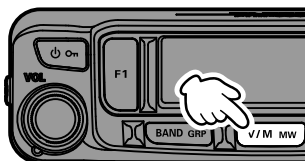
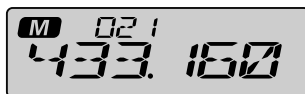
スプリットメモリー

1つのメモリーチャンネルに、異なる受信周波数と送信周波数を書き込みできます。

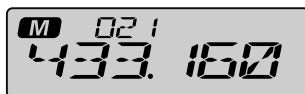
1. 下記の手順で“受信周波数”をメモリーに書き込みます。

受信周波数にあわせる → [V/M MW] キーを長押し → **DIAL** ツマミをまわしてチャンネルを選択 → [V/M MW] キーを長押し

2. [V/M MW] キーを押します。
3. 送信周波数にあわせます。
4. [V/M MW] キーを長押しします。



5. **DIAL** ツマミをまわして、手順 1. で“受信周波数”を書き込んだメモリーチャンネル番号を選びます。



6. **PTT** スイッチを押しながら、[V/M MW] キーを長押しします。

• このとき **PTT** スイッチを押しても送信状態にはなりません。

7. “**OVWRT?**”と確認画面が表示されますので、再度 [V/M MW] キーを長押しします。

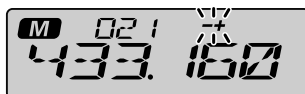
スプリットメモリーが保存されます。



- スプリットメモリーの呼び出し中は、ディスプレイに“-+”が表示されます。
- スプリットメモリーの呼び出し中に、リバー機能を動作させると、一時的に送信と受信周波数を入れ替えることができます。リバー中は“-+”が点滅します。リバー機能は以下の操作で動作します。
- [F MENU] キーを押す → “F-19 RPT.REV”を選択 → **DIAL** ツマミを押す



スプリットメモリーの表示



リバー状態の表示

スキャンしたくないメモリーチャンネルをスキップする(スキャンスキップ)

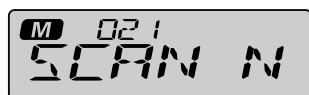
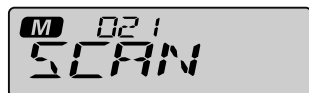
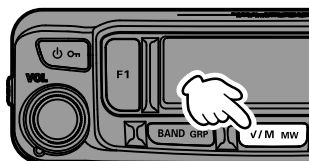
受信したくないメモリーチャンネルを指定すると、指定したメモリーチャンネル以外のチャンネルだけをスキャンします。

1. スキャンしたくないメモリーチャンネルを呼び出します。
2. [V/M MW] キーを長押しします。
3. **DIAL** ツマミをまわして“**SCAN**”を選択します。
4. **DIAL** ツマミを押します。
5. **DIAL** ツマミをまわして“**SCAN N**”を選択します。
6. [V/M MW] キーを長押しします。
スキャンスキップが指定され、メモリーモード画面に戻ります。

スキャンスキップ指定を解除するには、上記の操作を繰り返し、手順5で“**SCAN**”を選択します。



PMS 用のメモリーチャンネル、L01/U01 ~ L50/U50 には、スキャンスキップ設定はできません。



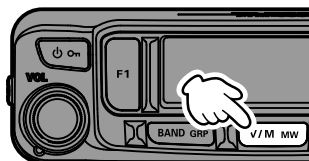
プログラマブルメモリースキャン(PMS)

PMS メモリーで指定した上限と下限周波数の範囲だけをスキャンして、信号がある周波数を探します。

プログラマブルメモリーに書き込む

PMS メモリーチャンネルには、上下限周波数が 50 組(L01/U01 ~ L50/U50) 書き込みできます。

1. スキャンする周波数範囲の下限周波数にあわせませす。
2. [V/M MW] キーを長押しします。
3. **DIAL** ツマミをまわして Lxx(L01 ~ L50)のチャンネルにあわせませす。
4. [V/M MW] キーを長押しします。
5. スキャンする周波数範囲の上限周波数にあわせませす。
6. [V/M MW] キーを長押しします。
7. **DIAL** ツマミをまわして Uxx(手順3と同じ番号)のチャンネルにあわせませす。
8. [V/M MW] キーを長押しします。



● 上下限周波数は、L01/U01 や L02/U02 など、同じ番号の組み合わせでメモリーしてください。



- プログラマブルメモリースキャンをするには、下記のように PMS メモリーを設定してください。
 - ・ 上下限周波数は同じ周波数帯にしてください
 - ・ 上下限周波数を逆にメモリーしないでください

プログラマブルメモリスキャン(PMS)を動作させる

1. 下限 (Lxx) または上限周波数 (Uxx) の PMS メモリーチャンネルを呼び出します。
2. マイクロホンの [UP] または [DWN] を長押しします。

プログラマブルメモリスキャンが開始されます。



- PMS 中は、ディスプレイに“P”と“PMS.SCN”が表示されます。
- スキャン中に **DIAL** ツマミをまわすと、スキャンする方向を変更することができます。

信号を受信するとスキャンが一時停止して、周波数表示が点滅します。約3秒後に再びスキャンを開始します。

- PMS スキャンが一時停止しているときは、**DIAL** ツマミをまわして次の周波数に進めることができます。

3. **PTT** スイッチを押すと、スキャンを中止します。



- PMS スキャンを中止した後は、**DIAL** ツマミをまわすと上下限周波数範囲内だけで周波数を変更することができます。
 - PMS スキャンを中止した後 [V/M MW] キーを押すと、通常のメモリーモードになります。
-

デュアルレシーブ(DW)機能

現在の VFO またはメモリーチャンネルの周波数を受信しながら、約 5 秒間に一度ホームチャンネルの信号の有無を自動的に確認します。ホームチャンネルに信号がある場合は、その信号が無くなるまで受信し続け、信号が無くなると約 5 秒後に再びデュアルレシーブを再開します。

デュアルレシーブ (DW) を動作させる

1. 常時受信する周波数またはメモリーチャンネルに設定します。
2. マイクロホンの [P1] ~ [P4] のいずれかに“DW”(デュアルレシーブ機能)を割り当てます。

DW 機能の割り当てかた

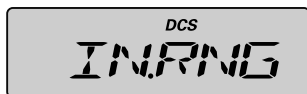
1. [F MENU] キーを長押しします。
 2. **DIAL** ツマミをまわして [**14 MIC.PGM**] を選択して **DIAL** ツマミを押します。
 3. **DIAL** ツマミをまわしてデュアルレシーブ(DW)機能を割り当てたいキー [PGM.P1]/[PGM.P2]/[PGM.P3]/[PGM.P4] を選択して **DIAL** ツマミを押します。
 4. **DIAL** ツマミをまわして、“DW”を選択して **DIAL** ツマミを押します。
5. “DW”を割り当てたキーを押します。
デュアルレシーブが動作します。
ホームチャンネルで信号を受信したときは、信号が無くなるまで受信し続けます。
信号を受信中は周波数表示が点滅します。
 6. “DW”を割り当てたキーを押すと、デュアルレシーブ機能が解除されます。



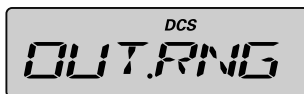
常時受信する周波数とホームチャンネルの周波数帯は、自由に組み合わせることができます。

アーツ(ARTS)機能

アーツ(ARTS)機能を搭載した相手局が、交信できる状態かどうかを自動的に調べ、交信可能・不可能を“ディスプレイの表示”と“ビープ音”で知らせる機能です。



交信可能な状態



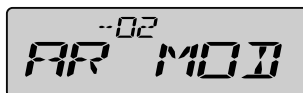
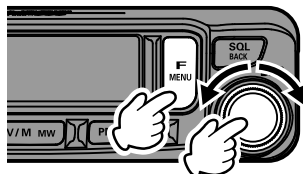
交信できない状態



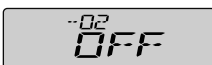

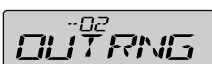
- 相手局の信号を 1 分 20 秒間受信できない場合に“交信できない状態”と判断します。
- ARTS 機能が動作中も、PTT を押して相手局と交信することができます。

ARTS の設定を行う

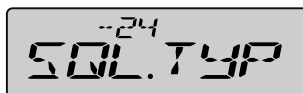
1. [F MENU] キーを長押しします。
2. DIAL ツマミをまわして[02 AR MOD]を選択して、DIAL ツマミを押します。



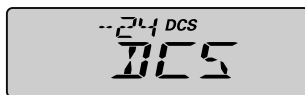
3. DIAL ツマミをまわして、ARTS の動作を下表から選択して [SQL BACK] キーを押します。

表示	動作
	交信可能な状態の時は“IN.RNG”を表示し、交信できない状態の時は“OUT.RNG”を表示します。 どちらの場合も、ビープ音は鳴りません。
 (工場出荷時の設定)	交信可能な状態の時は“IN.RNG”を表示し、相手局の信号を受信するたびに“ピッ”とビープ音が鳴ります。 交信できない状態の時は“OUT.RNG”を表示します。 初めて交信できない状態になった時に、一度だけ“ピピピッ”とビープ音が鳴ります。
	交信可能な状態の時は“IN.RNG”を表示します。 初めて交信できる状態になった時に、一度だけ“ピッ”とビープ音が鳴ります。 交信できない状態の時は“OUT.RNG”を表示します。 相手局の信号を 1 分 20 秒間受信できない都度“ピピピッ”とビープ音が鳴ります。

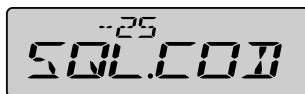
4. DIAL ツマミをまわして[24 SQL.TYP]を選択して、DIAL ツマミを押します。



5. **DIAL** ツマミをまわして“**DCS**”を選択して、[SQL BACK] キーを押します。

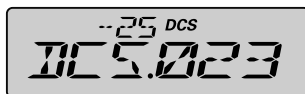


6. **DIAL** ツマミをまわして[**25 SQL.COD**]を選択して、**DIAL** ツマミを押します。



7. **DIAL** ツマミをまわして、相手局と同じ DCS コードを選択して、**DIAL** ツマミを押します。

DCS コードは“**DCS.023**”～“**DCS.754**”から選ぶことができます。

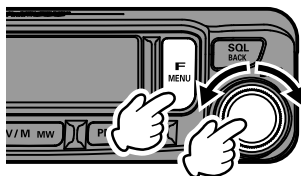


以上で ARTS の設定は完了です。

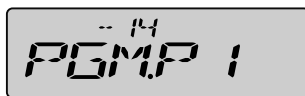
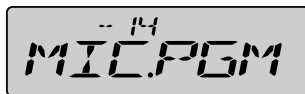
ARTS 機能を動作させる

ARTS 機能を動作させるには、マイクロホンの [P1]/[P2]/[P3]/[P4] のいずれかのキーに“ARTS 機能”を割り当てます。

1. [F MENU] キーを長押しします。
2. **DIAL** ツマミをまわして[**14 MIC.PGM**]を選択して、**DIAL** ツマミを押します。

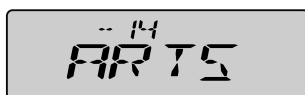


3. **DIAL** ツマミをまわして ARTS 機能を割り当てたキー“**PGM.P1**”、“**PGM.P2**”、“**PGM.P3**”、“**PGM.P4**”を選択して、**DIAL** ツマミを押します。



例：[P1] キーに割り当てる場合

4. **DIAL** ツマミをまわして“**ARTS**”を選択して、**DIAL** ツマミを押します。

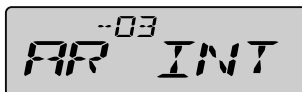
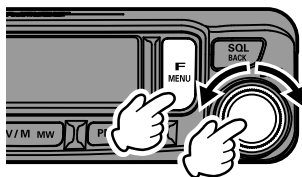


5. 相手局と同じ周波数にあわせて、ARTS 機能を割り当てたキーを押すと、ARTS 機能が動作します。
6. ARTS 機能を割り当てたキーを押すと、ARTS 機能が解除されます。

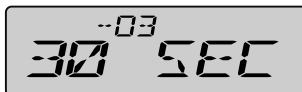
ARTS 信号の自動送出間隔を変える

ARTS 機能が動作中に、自動的に送出する ARTS 信号の送出間隔を設定することができます。

1. [F MENU] キーを長押しします。
2. **DIAL** ツマミをまわして[03 AR INT] を選択して、**DIAL** ツマミを押します。



3. **DIAL** ツマミをまわして“30 SEC” (30 秒間隔、工場出荷時の設定) または “1 MIN” (1 分間隔) を選択します。

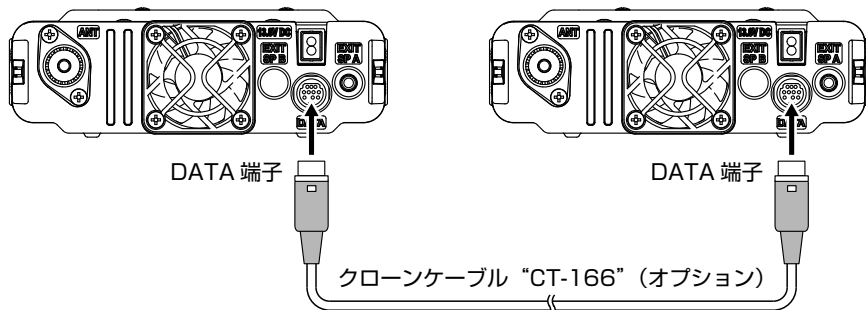


4. **DIAL** ツマミを押すと設定が保存され、通常画面に戻ります。

クローン操作

メモリー内容や各種の設定などを、別のFTM-6000/Sにクローン(コピー)できます。

1. クローンをする2台のFTM-6000/Sの電源をオフにします。
2. 下図を参考に、オプションのクローンケーブル“CT-166”で本体背面のDATA端子同士を接続します。



3. [F1] キーを押しながら、それぞれのFTM-6000/Sの電源をオンにします。
ディスプレイに“CLONE”と表示されます。
4. コピー先のFTM-6000/Sの**DIAL** ツマミを押します。
ディスプレイに“CLN RX”が表示されます。
5. コピー元のFTM-6000/Sの**DIAL** ツマミを押します。
6. **DIAL** ツマミをまわして“CLN TX”を選択します。
7. コピー先のFTM-6000/Sの**DIAL** ツマミを押します。
ディスプレイに“RCV.WAT”が表示されます。
8. コピー元のFTM-6000/Sの**DIAL** ツマミを押します。
ディスプレイに“SND.ING”が表示され、クローンが開始されます。
9. クローンが終了すると、コピー先のFTM-6000/Sは自動的に再起動し、コピー元のFTM-6000/Sは表示が“SND.ING”から“SND.CMP”になります。
10. 以上でクローン(コピー)は完了です。
2台のFTM-6000/Sの電源を切り、クローンケーブルを外します。

CLONE

CLN RX

CLN TX

RCV.WAT

SND.ING



“Error”が表示された場合は、クローンケーブルの接続を確認して、もう一度はじめからやり直してください。

外部機器と接続

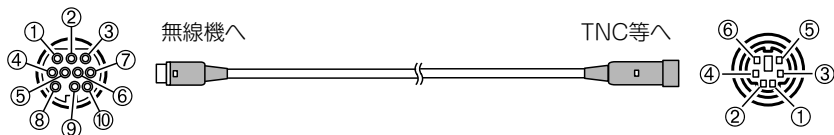
オプションのデータケーブルを使用して、本体後面の“DATA”端子と TNC(ターミナルノードコントローラ)を接続してパケット通信ができます。

●準備するもの

- TNC
- パソコン
- データケーブル^{*} … 接続する機器にあわせてご用意ください

●オプションのデータケーブル

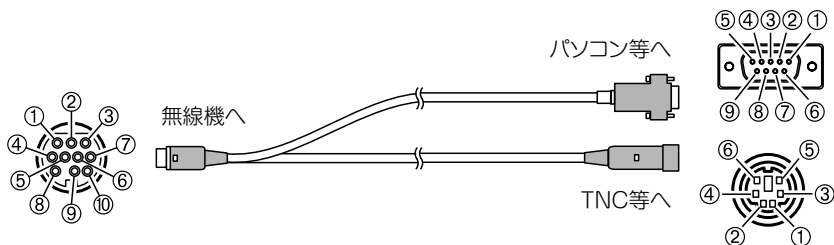
- データケーブル“CT-164”(MDIN10ピン ↔ MDIN6ピン)



- ① PKD(パケットデータインプット)
- ② GND
- ③ PSK(PTT)
- ④ RX 9600(9600bps パケットデータアウトプット)
- ⑤ RX 1200(1200bps パケットデータアウトプット)
- ⑥ PK SQL(スケルチ制御)
- ⑦ -
- ⑧ -
- ⑨ -
- ⑩ -

- ① PKD(パケットデータインプット)
- ② GND
- ③ PSK(PTT)
- ④ RX 9600(9600bps パケットデータアウトプット)
- ⑤ RX 1200(1200bps パケットデータアウトプット)
- ⑥ PK SQL(スケルチ制御)

- データケーブル“CT-163”(MDIN10ピン ↔ MDIN6ピン + Dsub9ピン)

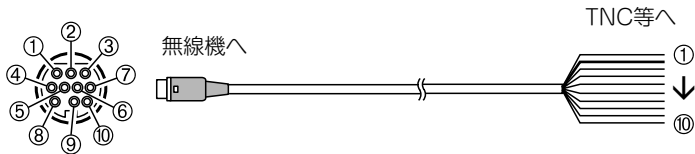


- ① PKD(パケットデータインプット)
- ② GND
- ③ PSK(PTT)
- ④ RX 9600(9600bps パケットデータアウトプット)
- ⑤ RX 1200(1200bps パケットデータアウトプット)
- ⑥ PK SQL(スケルチ制御)
- ⑦ TXD(シリアルデータアウトプット [無線機→ PC])
- ⑧ RXD(シリアルデータインプット [無線機← PC])
- ⑨ CTS(データ通信制御)
- ⑩ RTS(データ通信制御)

- Dsub 9ピン**
- ① -
- ② TXD(シリアルデータアウトプット [無線機→ PC])
- ③ RXD(シリアルデータインプット [無線機← PC])
- ④ -
- ⑤ GND
- ⑥ -
- ⑦ CTS(データ通信制御)
- ⑧ RTS(データ通信制御)
- ⑨ -

- DIN 6ピン**
- ① PKD(パケットデータインプット)
- ② GND
- ③ PSK(PTT)
- ④ RX 9600(9600bps パケットデータアウトプット)
- ⑤ RX 1200(1200bps パケットデータアウトプット)
- ⑥ PK SQL(スケルチ制御)

● データケーブル“CT-167”(MDIN10 ピン ↔ 先バラ)



① PKD(パケットデータインプット)	① 茶	PKD(パケットデータインプット)
② GND	② 黒太線	GND
③ PSK(PTT)	③ 赤	PSK(PTT)
④ RX 9600 (9600bps パケットデータアウトプット)	④ オレンジ	RX 9600 (9600bps パケットデータアウトプット)
⑤ RX 1200 (1200bps パケットデータアウトプット)	⑤ 黄	RX 1200 (1200bps パケットデータアウトプット)
⑥ PK SQL(スケルチ制御)	⑥ 緑	PK SQL(スケルチ制御)
⑦ TXD (シリアルデータアウトプット [無線機→PC])	⑦ 青	TXD (シリアルデータアウトプット [無線機→PC])
⑧ RXD (シリアルデータインプット [無線機←PC])	⑧ グレー	RXD (シリアルデータインプット [無線機←PC])
⑨ CTS(データ通信制御)	⑨ 白	CTS(データ通信制御)
⑩ RTS(データ通信制御)	⑩ 黒	RTS(データ通信制御)

- 必ず本機の電源を切ってから接続してください。
- TNCとパソコンの接続方法については、使用するTNCの取扱説明書などを参照してください。
- パソコンが発生する雑音によって、受信が妨害される場合があります。
- 正常に受信できない場合は、パソコンを本機から離し、フォトカプラーやノイズフィルターを使って接続してください。

● データ通信速度の設定

1. [F MENU] キーを長押しします。
メニューリスト画面が表示されます。
2. **DIAL** ツマミをまわして[16 PKT.SPD]を選択して、**DIAL** ツマミを押します。
3. **DIAL** ツマミをまわして“1200BP”または“9600BP”を選択します。
4. **DIAL** ツマミを押すと設定が保存され、通常画面に戻ります。

以上でパケット通信の設定は完了です。

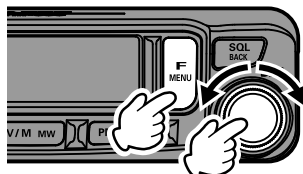
大量のデータを転送するときには送信時間が長くなり、本機が発熱します。長時間送信し続けると、過熱防止回路が作動して送信出力が下がります。さらに送信を続けると、過熱による故障を防ぐために、自動的に送信が中止され、受信状態になります。過熱防止回路が作動して受信状態になったときには、電源を切るか、受信状態のまま、温度が下がるまでお待ちください。

使い方にあわせて設定を変える(メニューリスト)

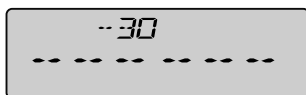
メニューリストを使うと、本機のさまざまな機能を使い方にあわせてカスタマイズできます。それぞれのメニューリスト項目で設定や入力を行うことで本機をより使いやすくすることができます。

メニューリストの操作方法

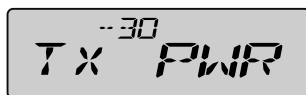
1. **[F MENU]** キーを長押しします。
メニューリスト画面が表示されます。
2. **DIAL** ツマミをまわして項目を選び **DIAL** ツマミを押します。



- “-----”で表示される項目は **[F MENU]** を短押しすると表示される“ファンクションリスト”に割り当てられています。
- 工場出荷時は“F-12 HOME”、“F-19 RPT.REV”、“F-20 RPT.SET”、“F-30 TX PWR”がファンクションリストに割り当てられています。
- “ファンクションリスト”で項目を選び **[SQL BACK]** キーを長押しすると、“ファンクションリスト”への割り当てが取り消されて、メニューリストで表示することができます。



ファンクションリストに
割り当てられている場合



メニューリストでの表示 -

3. **DIAL** ツマミをまわして設定を変更します。
4. **DIAL** ツマミを押すと、設定内容を保存して通常画面に戻ります。

メニューリスト動作一覧表

番号 / 項目	機能説明	選択できる項目 (太字は工場出荷時の値)
01 APO	オートパワーオフ動作時間の設定	OFF / 0.5H / 1.0H / 1.5H / 2.0H ~ 12.0H (時間)
02 AR MOD	ARTS(アーツ)モードの設定	OFF / IN RNG / OUTRNG
03 AR INT	ARTS(アーツ)チェック間隔の設定	30 SEC / 1 MIN
04 BCLO	信号受信中の送信禁止設定	OFF / ON
05 BEEP	ビーブ音の音量設定	OFF / LOW / HIGH
06 BELL	ベル機能の設定	OFF / 1TIME / 3TIMES / 5TIMES / 8TIMES / CONTI(連続)
07 CLK.TYP	クロックシフトの設定	TYP A / TYP B
08 DIMMER	バックライト、キーの明るさ設定	OFF(明るい) / MID / MAX(暗い)
09 DTMF	DTMF コードの送出方法の設定	MANUAL / AUTO
10 DT TX	登録してある DTMF コードの送出	-
11 DT MEM	DTMF コードの登録	CH1 ~ CH9
12 HOME*	ホームチャンネルの呼び出し	145.000MHz
13 MIC.GIN	マイク入力レベルの調整	MIN / LOW / NORMAL / HIGH / MAX
14 MIC.PGM	マイクロホンのプログラムキー (P1/P2/P3/P4)の機能設定	ARTS / SCN ON / HOME / RPT.SFT / RPT.REV / TX PWR / SQL OFF / T-CALL / DW PGM.P1: SQL OFF PGM.P2: HOME PGM.P3: SCN ON PGM.P4: TX PWR
15 PAGER	ページャー機能の個別コード(送信 / 受信)の設定	CDR(受信): 各 01 ~ 50 (05 47) CDT(送信): 各 01 ~ 50 (05 47)
16 PKT.SPD	データ通信ポーレートの設定	1200BP / 9600BP
17 RX MOD	受信モードの切り替え	AUTO / FM / AM
18 BND.SEL	選択できるバンド(周波数帯)の設定	AIR : ON / OFF VHF : ON / OFF UHF : ON / OFF OTH : ON / OFF
19 RPT.REV*	レピータ運用時に一時的に送信と受信の周波数を入れ替える	-
20 RPT.SET*	レピータシフト方向の設定	SIMP / -SFT / +SFT
21 RPT.OTR	RPT.ARS ARS(オートレピーターシフト)機能の ON/OFF 設定	OFF / ON
	RPT.FRQ レピータシフト幅の設定	0.00MHz ~ 99.95MHz
22 SCN.ON	スキャン機能動作開始	-
23 SCN.TYP	SCN.RSM スキャンストップ時のスキャン再開条件の設定	BUSY / HOLD / 1 SEC / 3 SEC / 5 SEC
	DW RVT DW 動作中の送信操作で、常にホームチャンネルで送信することができます。	OFF / ON

*工場出荷時は [F MENU] を短押しすると表示される“ファンクションリスト”に割り当てられています。

番号 / 項目	機能説明	選択できる項目 (太字は工場出荷時の値)
24 SQL.TYP	スケルチタイプの選択	OFF / TON.ENC / TON.SQL / REV.TON / DCS / PR FRQ / PAGER / DCS.ENC * / TON.DCS * / DCS.TSQ * / JR FRQ ※ 26 SQL.EXP が“ON”の時に表示されます。
25 SQL.COD	トーン周波数や DCS コードの選択	トーン周波数 67.0Hz ~ 254.1Hz (88.5Hz) DCS コード 023 ~ 754
26 SQL.EXP	送受信で別々のスケルチタイプの設定の許可	ON / OFF
27 STEP	チャンネルステップの設定	AUTO / 5kHz / 6.25kHz / (8.33kHz*) / 10kHz / 12.5kHz / 15kHz / 20kHz / 25kHz / 50kHz / 100kHz ※ AIR バンドでのみ選択できます。
28 xx.xC	終段部付近の温度表示 10℃未満の場合は“LOWTMP”と表示されます	—
29 TOT	タイムアウトタイマーの設定	OFF / 1 MIN / 2 MIN / 3 MIN / 5 MIN / 10 MIN / 15 MIN / 20 MIN / 30 MIN (分)
30 TX PWR *	送信出力の切り替え	LOW / MID / HIGH
31 VER.DSP	DSP ソフトウェアのバージョンを表示	Main : Mxx.xx Panel : Pxx.xx
32 xx.xV	電源電圧表示	—
33 WIDTH	FM 帯域幅の設定	WIDE / NARROW
34 BLT	Bluetooth® 機能の設定	OFF / ON
	BLT.LST 登録済またはサーチで見つかった Bluetooth® 機器のリスト表示	—
	BLT.SAV Bluetooth® ヘッドセットの省電力設定	OFF / ON
	BLT.AF Bluetooth® ヘッドセット使用時の無線機のスピーカーからの音声出力設定	AUTO / FIX

※工場出荷時は [F MENU] を短押しすると表示される“ファンクションリスト”に割り当てられています。

01 APO

APO(オートパワーオフ)時間の設定

一定時間操作しなかった場合に、自動的に電源をオフにするかどうかを設定します。

OFF	自動的に電源をオフにしません。
0.5 H / 1.0H / 1.5H / 2.0H ~ ~ 12 H (時間)	指定した時間の間に何も操作しなかった場合、電源が自動でオフになります。

02 AR MOD

ARTS 機能の動作設定

相手局と交信可能な状態か交信できない状態かを知らせる“ディスプレイの表示”と“ビーブ音”の動作を設定します。

OFF	交信可能な状態の時は“IN.RNG”を表示し、交信できない状態の時は“OUT.RNG”を表示します。 どちらの場合も、ビーブ音は鳴りません。
IN RNG	交信可能な状態の時は“IN.RNG”を表示し、相手局の信号を受信するたびに“ピッ”とビーブ音が鳴ります。 交信できない状態の時は“OUT.RNG”を表示します。 初めて交信できない状態になった時に、一度だけ“ピピピッ”とビーブ音が鳴ります。
OUTRNG	交信可能な状態の時は“IN.RNG”を表示します。 初めて交信できる状態になった時に、一度だけ“ピッ”とビーブ音が鳴ります。 交信できない状態の時は“OUT.RNG”を表示します。 相手局の信号を 1 分 20 秒間受信できない都度“ピピピッ”とビーブ音が鳴ります。

03 AR INT

ARTS 信号の自動送出間隔設定

ARTS 機能が動作中に、自動的に送出する ARTS 信号の送出間隔を設定します。

30 SEC	約 30 秒毎に確認信号を送出します。
1 MIN	約 1 分毎に確認信号を送出します。

04 BCLO

信号受信中の送信禁止設定(ビジーチャンネルロックアウト)

信号を受信中に、誤って送信しないように設定します。

OFF	信号を受信中でも送信できます。
ON	信号を受信中は送信できません。

05 BEEP

ビーブ音の音量設定

ビーブ音の音量を設定します。

OFF	ビーブ音は鳴らなくなります。
LOW / HIGH	LOW(音量“小”) / HIGH(音量“大”)

DIAL ツマミをまわすと、設定した音量のビーブ音が鳴ります。

06 BELL

ベル機能動作時の呼出回数設定

相手局からの呼び出し(同じトーンや DCS、ページャーコードを含む信号を受信)をベル音で知らせるかどうかを設定します。

OFF	ベル音は鳴りません。
1 TIME / 3TIMES 5TIMES / 8TIMES	ベル音が鳴る回数を 1 回、3 回、5 回、8 回から設定できます。
CONTI	キー操作を行うまでベル音が連続で鳴り続けます。

詳細は、“相手からの呼び出しを知らせるベル機能”(□ 9)を参照してください。

07 CLK.TYP

CPU クロックのシフト設定

本機に搭載されている CPU のクロック信号を、高周波による内部スプリアスとして受信しないように設定します。通常使用時は“TYP A”を選択してください。

TYP A	クロックシフト機能が自動的に ON/OFF します。
TYP B	常にクロックシフト機能を動作させます。

08 DIMMER

バックライト輝度の調整

ディスプレイのバックライトとキー照明の明るさを調節します。

OFF / MID / MAX	OFF (明るい) / MID / MAX (暗い)
-----------------	----------------------------

09 DTMF

DTMF コードの送出方法設定

DTMF コードを手動で送出するか、自動で送出するかを設定します。

詳細は、“DTMF 機能を使う”(□ 10)を参照してください。

MANUAL	マイクロホンの数字キーを押して、手動で DTMF コードを送出します。
AUTO	DTMF メモリーに登録された DTMF コードを自動で送出します。

10 DT TX

登録してある DTMF コードの送出

DTMF コードを自動で送出する場合、送出したい DTMF コードが登録されているチャンネルを選択します。

詳細は、“登録した DTMF コードを送出する” (☞ 12) を参照してください。

11 DT MEM

DTMF メモリー CH 選択および編集

9 個の DTMF メモリーに最大 16 桁の DTMF コードを登録できます。

詳細は、“DTMF メモリーを登録する” (☞ 10) を参照してください。

12 HOME

※工場出荷時は [F MENU] を短押しすると表示される“ファンクションリスト”に割り当てられています。

ホームチャンネルの呼び出し

メモリーされているホームチャンネルを呼び出すことができます。

13 MIC.GIN

マイク入力レベルの調整

マイクの感度を調整します。

MIN / LOW	MIN (感度小) ~ MAX (感度大)
NORMAL / HIGH	
MAX	

PTT スイッチを押して送信しながら調整することもできます。

14 MIC.PGM

マイクロホンのプログラマブルキーの機能変更

付属マイクロホン“SSM-85D”のプログラマブルキー [P1]/[P2]/[P3]/[P4] に機能を割り当てます。工場出荷時は、各キーに下記の機能が割り当てられています。

[P1] : SQL OFF

[P2] : HOME

[P3] : SCN ON

[P4] : TX PWR

ARTS	ARTS 機能
SCN ON	スキャン開始 / 停止
HOME	ホームチャンネルの呼び出し
RPT.SFT	レピータのシフト方向の変更
RPT.REV	リバース機能
TX PWR	送信出力設定
SQL OFF	スケルチオフ
T-CALL	選択しないでください
DW	デュアルレシーブ機能

15 PAGER

ページャーコード(送信用 / 受信用)の設定

相手局を呼び出すとき(送信用)および自局が呼び出されるととき(受信用)のページャーコードを選択します。

01 ~ 05 ~ 50, 01 ~ 47 ~ 50	送信用および受信用のページャーコード
-------------------------------	--------------------

詳細は、“ページャー(EPCS)機能”(□ 7)を参照してください。

16 PKT.SPD

データ通信のボーレート設定

データ通信(背面の“DATA”端子使用時)の通信速度を設定します。

1200BP	通信速度が 1200bps になります。
9600BP	通信速度が 9600bps になります。

17 RX MOD

受信モードの切り替え

現在のバンドの受信モードを切り替えます。

AUTO	周波数帯に適したモードに自動的に切り替わります。
FM	選択しているバンドだけ、FM モードに切り替わります。
AM	選択しているバンドだけ、AM モードに切り替わります。

18 BND.SEL

バンドスキップ機能の設定

使用したいバンドだけを選択できるようにできます。

工場出荷時は全バンド“ON”に設定されています。

AIR : 108MHz ~ 137MHz

VHF : 137MHz ~ 174MHz

UHF : 400MHz ~ 480MHz

OTH : 174MHz ~ 400MHz、480MHz ~ 999.995MHz

ON	ON にしたバンドの周波数帯は選択可能です。
OFF	OFF にしたバンドの周波数は選択できなくなります。

19 RPT.REV

※工場出荷時は [F MENU] を短押しすると表示される“ファンクションリスト”に割り当てられています。

一時的に送信周波数と受信周波数を入れ替える

レピータ運用時に、一時的に送信と受信の周波数を入れ替えて、相手局のアップリンクを直接受信できるかどうかを確認することや、PTT スイッチを押してダウンリンク周波数で送信して相手局と交信ができます。

20 RPT.SET

※工場出荷時は [F MENU] を短押しすると表示される“ファンクションリスト”に割り当てられています。

レピータシフト方向の設定

レピータのシフト方向を設定します。

SIMP	シフトしません。
- SFT	周波数の低い方向へシフトします。
+ SFT	周波数の高い方向へシフトします。

21 RPT.OTR

RPT.ARS(オートレピータシフトの設定)

ARS(レピータの周波数にあわせるだけで自動的にレピータが使える)機能を使用するかどうかを設定します。

OFF	ARS がオフになります。
ON	ARS がオンになります(430MHz 帯のみ)。

RPT.FRQ(レピータシフト幅の設定)

レピータのシフト幅を設定します。

0.00MHz ~ ~ 99.95MHz	レピータのシフト幅
---------------------------------	-----------

22 SCN.ON

信号がある周波数を探すスキャン機能の ON/OFF

VFO モード、メモリーモード、PMG で信号がある周波数を探します。スキャン中に操作するとスキャンが停止します。

23 SCAN TYP

SCN.RSM(スキャンストップ時のスキャン再開条件の設定)

スキャン中に信号を受信してスキャンが停止したときの動作を選択します。

BUSY	信号が無くなるまで受信し、信号が無くなると2秒後にスキャンを再開します。
HOLD	スキャンを中止し、その周波数を受信し続けます。(スキャンは再開しません)
1 SEC / 3 SEC / 5 SEC (秒)	設定した時間の間だけ受信し、その後は信号があってもスキャンを再開します。

DW RVRT(DW 動作中の送信操作で常にホームチャンネルで送信)

デュアルレシーブ(DW)動作中に PTT スイッチを押したときの動作を設定します。

OFF	ホームチャンネルで一時停止中に PTT スイッチを押すと、ホームチャンネルで送信します。PTT スイッチを放すとホームチャンネルを約5秒間受信して、その後 DW 動作を継続します。 ホームチャンネルではないときに、PTT スイッチを押すとその周波数で送信して、DW 動作は継続します。
ON	PTT スイッチを押すと、常にホームチャンネルで送信します。PTT スイッチを放すとホームチャンネルを約5秒間受信して、その後 DW 動作を継続します。

24 SQL TYPE

特定の相手局と交信する際のスケルチの種類を設定します。

詳細は、“スケルチの種類を選択する”(□ 2)を参照してください。

25 SQL CODE

トーン周波数や DCS コードの設定

トーンスケルチ機能などで使用するトーン周波数を設定します。トーン周波数は、67.0 ~ 254.1Hz の 50 種類から選択できます。

詳細は、“トーン周波数を設定する”(□ 3)を参照してください。

デジタルコードスケルチ(DCS)機能で使用する DCS コードを設定します。DCS コードは、023 ~ 754 の 104 種類から選択できます。

詳細は、“DCS コードを設定する”(□ 5)を参照してください。

26 SQL EXP

送受信で個別スケルチ設定の ON/OFF

“24 SQL TYPE”で、送受信で異なるスケルチの種類を選択できるようにするかどうかを設定します。

OFF	送受信で個別スケルチは選択できません。
ON	送受信で個別スケルチ“DCS.ENC”、“TON.DCS”、“DCS.TSQ”が選択できます。

詳細は、“スケルチの種類を選択する”(□ 2)を参照してください。

27 STEP

周波数ステップの設定

DIAL ツマミやマイクロホンの [UP]/[DOWN] キーで 1 回に変わる周波数値を変えることができます。

AUTO	受信周波数に応じて自動的に最適な周波数ステップに切り替わります。
5KHZ 6.25KHZ 8.33KHZ ※ 10KHZ 12.5KHZ 15.0KHZ 20.0KHZ 25.0KHZ 50.0KHZ 100.0KHZ	選択した周波数ステップで切り替わります。

※ 8.33kHz は、航空無線帯で設定することができます。

28 xx.xx C

無線機の終段部付近の温度を表示

本機の終段部付近の温度(°C)を表示します。

なお、温度が約 10°C 以下の場合には“LOWTMP”と表示されます。

29 TOT

連続送信の制限時間の設定(タイムアウトタイマー)

一定時間連続で送信した場合、自動で受信状態に戻るよう設定します。誤動作での不要電波送出を防げます。

OFF	タイムアウトタイマーは機能しません。
1 MIN / 2 MIN 3 MIN / 5 MIN 10 MIN / 15 MIN 20 MIN / 30 MIN	設定時間連続で送信した場合、自動で受信状態に戻ります。

自動で受信状態に戻る約 10 秒前にビーブ音が鳴ります。

30 TX PWR

送信出力の切り替え

距離が近い相手と交信する場合など、送信出力を下げるすることができます。

HIGH	FTM-6000 : 約 50W FTM-6000S : 約 20W
MID	FTM-6000 : 約 25W FTM-6000S : 約 10W
LOW	FTM-6000 : 約 5W FTM-6000S : 約 1W

31 VER.DSP

本機のファームウェアバージョン表示

本機のファームウェアのバージョンを表示します。DIAL ツマミをまわすと“Main”と“Panel”を切り替えることができます。

M x.xx	Main のファームウェアバージョンを表示します。
P x.xx	Panel のファームウェアバージョンを表示します。

32 xx.xV

電源電圧表示

本機の電源電圧を表示します。

33 WIDTH

送信変調レベル設定

送信変調レベルを設定します。通常は“WIDE”のままで使用します。

WIDE	通常の変調レベルです。
NARROW	送信変調レベルが通常の約半分になります。

34 BLT

Bluetooth® 機能の設定

Bluetooth® 機能の設定や Bluetooth® ヘッドセットとの接続をします。
詳細については、取扱説明書の“Bluetooth® 機能”を参照してください。

BLT.LST(Bluetooth® デバイスリスト)

登録済みまたはサーチして見つけた Bluetooth® 機器のリストを表示します。
Bluetooth® ヘッドセットを選択して接続することができます。
詳細については、取扱説明書の“Bluetooth® 機能”を参照してください。

BLT.SAV(Bluetooth® バッテリーセーブ機能)

Bluetooth® バッテリーセーブ機能をオンにすると、待機中の Bluetooth® ヘッドセットのバッテリーを長持ちさせることができます。
詳細については、取扱説明書の“Bluetooth® 機能”を参照してください。

BLT.AF(Bluetooth® 接続中に本機のスピーカーを鳴らすかどうかを設定する)

Bluetooth® ヘッドセット接続中に、本機のスピーカーから音を鳴らすかどうかを設定することができます。
詳細については、取扱説明書の“Bluetooth® 機能”を参照してください。



本製品または他の当社製品についてのお問い合わせは、お買い上げいただきました販売店または、当社カスタマーサポートにお願いいたします。

八重洲無線株式会社 カスタマーサポート

電話番号 0570-088013

受付時間 平日9:00～12:00、13:00～18:00

八重洲無線株式会社 〒140-0002 東京都品川区東品川12-5-8 天王洲パークサイドビル
